

とってもやさしい  
アポイ岳ジオパーク講座  
【第8回】

ジオサイトめぐり  
(見どころ) その5

■日高耶馬溪エリア：  
【D2】日高主衝上断層



ここが、大昔にぶつかった  
2つの陸地の境目です！  
東冬島トンネルを出てすぐ  
この看板が目印

大昔、北海道は遠く離れた2つの陸地に分かれていました。その2つの陸地が地球表面の活動によってどんどん近付き、ついにはぶつかります。ぶつかった後も動きは止まらず、とうとう片方の陸地がもう片方の上に乗り上げて、盛り上がりました。そうしてできたのが日高山脈です。つまり、南北に走る日高山脈の東側と西側は、もともとは全く別の陸地だったのです。

そして、その2つの陸地の境目をくっきり見ることができ、とても貴重な場所が様似町にあるのです。このジオサイトがそれ。ここは東冬島トンネルのえりも側出口から50mほどの国道沿いにあります。

昨年、説明看板を設置したので、ぜひ陸地衝突の現場を見に行ってみてはいかがでしょうか？（見学の際は車に十分注意してください。）

■様似海岸エリア：【C2】親子岩とソビウ岩

ソビウ岩や親子岩は、どうやってできたのでしょうか。大昔、地球の活動によって地面が強い力で押され、様似海岸付近で地面がひび割れました。その割れ目からマグマが入り込み、やがて冷えて固まります。もとの地面は軟らかかったのでやがて海の波によって削られなくなりましたが、マグマが固まった部分は硬いので削られずに残りました。その残った硬い部分が、現在私たちが目にしている親子岩などの様似海岸の奇岩類です。

例えば砂浜で砂の山を作り、その中に石を埋め込んだとします。そのまま放っておくと、すぐに砂の山は波に洗われ、くずれてなくなってしまうますが、石はそのまま残ります。砂をもとの地面、石をマグマが固まった親子岩だと考えると、当時の出来事がなんとなく想像できませんか？



波の力に負けずに今なお残る親子岩

ひだかしゅしょう  
じょうだんそう、ひだかしゅしょう  
だかしゅしょう、ひだかしゅしょう  
うだんそう、ひだかしゅしょう  
じょうだんそう、あれれ？

とこでカンランく  
ん、このジオサイ  
トの名前を10回言っ  
てみて。

勝峠の近くまで続い  
ているらしいけど、はっきり見  
られるのはここ様似だけなん  
だって。みんなも見に行ってみ  
てね！

2つの陸地の境目  
(断層)は様似から狩  
勝峠の近くまで続い  
ているらしいけど、はっきり見  
られるのはここ様似だけなん  
だって。みんなも見に行ってみ  
てね！

も、その衝突の現場  
が様似にあるなんて  
びっくり。

そうだったわね。で  
も、その衝突の現場  
が様似にあるなんて  
びっくり。

もちろんさ！だって、  
日高山脈ができた  
きに、ぼくたちかん  
らん岩も地下深くから地上に出  
てきたんだもん。